

## 第2回 西成区教育行政連絡会 議事要旨

### 1 日時

令和6年8月7日(水) 午後1時30分~午後3時00分

### 2 場所

西成区役所 5階 5-2会議室

### 3 出席者

#### (1) 区役所

西成区長兼区シティマネージャー及び教育委員会事務局区担当教育次長、西成区副区長兼教育委員会事務局西成区教育担当理事、西成区役所保健福祉担当部長、西成区役所市民協働課長、西成区役所窓口サービス課長、西成区役所子育て支援担当課長兼教育委員会事務局西成区教育担当課長

#### (2) 中学校

天下茶屋中学教頭、今宮中学校長、成南中学教頭、玉出中学校長

#### (3) 小学校

岸里小学校長、玉出小学校長、千本小学校長、橘小学校長、まつば小学校、長橋小学校長、北津守小学校長、南津守小学校長、新今宮小学校長、(今宮中学校長兼務)

### 4 議事要旨

#### ○ 令和6年度 西成区こども・教育関連事業の実施について

##### 【説明要旨】

資料4に基づき、令和6年度西成区こども・教育関連事業の実施について子育て支援担当課長より説明。

##### 《西成区こども生活・まなびサポート事業》

・「不登校の実質ゼロ」を目指すため、寄り添い型の支援を行う支援員及びサポーターを各学校に配置している。

・取組内容について、「登校支援」は、電話・家庭訪問などにより児童生徒の登校を促す。「訪問支援」は、学校にほとんど通うことができず、家から出られない児童生徒等に対し、児童生徒の自宅を訪問し、学習支援、相談対応など、不登校による不利益が生じないような支援を行う。区登校支援・見守り支援員の配置校は区内16小中学校。

・「居場所支援」は、学校に通うことが出来るが、教室に入ることが難しい児童生徒が登

校できる校内適応指導教室（スペシャルサポートルーム）において、学びの場に定着できるように見守りを行う。区居場所支援員の配置校は区内の一部の中学校。教育委員会事務局でも同様の事業をしており、サポーターを天下茶屋中学校と南津守小学校にモデル的に配置。本格的な実施に向け、今後比較検討をしていく。

- ・「学習姿勢向上に向けた支援」は、小1プロブレムなどが原因で、学習姿勢が身につけていない小学校低学年の児童に対し、学習に向かえるように支援する。区学習姿勢向上支援員の配置校は区内10小学校。また、区低学年サポーターについては、学生を中心に有償ボランティアとして配置されている。

- ・スケジュールについて、各支援員の全体集合研修を7月25日に区登校支援・見守り支援員及び区居場所支援員に対して実施し、7月26日には区学習姿勢向上支援員に対して実施している。

- ・進捗状況について、4月から順次各支援員を配置し、各学校の実態に合わせて活動している。

- ・5月中旬～6月中旬に区内全10小学校の学習姿勢向上支援員の活動状況を確認。担任の先生が個別児童に手を取られることなく、全体の授業進行が円滑にできるようになりつつあるとの意見を担任の先生から頂いている。

- ・区内関係中学校に校内適応指導教室の環境整備にかかる物品の照会を実施しており、今後入札の手続きを行う予定。

#### 《外国につながる児童生徒の学習言語定着支援事業》

- ・学習言語が定着しておらず、学力に課題がある帰国・来日等の児童生徒に対して学習支援を行う事業。

- ・対象者は、小学校4年生～中学校3年生のうち、日本語指導教育センター校通級終了程度の生活言語を習得した児童生徒。学校から受講者を推薦していただき、国語、算数、数学、理科、社会、英語の中から、児童生徒の状況に応じて教科を決定していく。

- ・実施内容は、児童生徒3名に対して講師を1名配置し、個別の学習指導を行っている。小学校低学年の教材も用意しており、講師は「やさしい日本語」で教えている。

- ・実施場所は、鶴見橋中学校（6月27日から受講開始）と岸里小学校（6月28日から受講開始）となっている。

- ・進捗状況について、定員65名に対し小学生14名と中学生3名の参加となっているため、引き続き学校に対し受講者推薦の協力をお願いしたい。

- ・参加人数を増やしていく改善策として、ホームページの作成、保護者が理解できるように募集ビラの翻訳化（英語版、中国語版、タガログ語版、ベトナム語版）もしているところであり、今後学校に送付予定。

#### 《学力分析に基づく演習を活用した苦手分野克服事業》

- ・中学校の学力診断検査や高校入試の本番を想定した模擬テストを通じて、生徒の苦手分野を把握し、生徒にフィードバックすることで自身の課題を認識させるとともに、苦手分野の反復演習をすることで、個人の学力向上を図り、ひいては学校全体の学力の底上げを図る。中学生を対象とし、5教科を実施。
- ・スケジュールについて、5月31日に中学3年生が模擬テストを受験。7月4日に苦手分野の演習問題を配布。7月5日に生徒個人に対し、テスト結果を返却。事業者独自の工夫として、7月1日よりデジタルドリルの利用開始。
- ・また、中学校1・2年生は12月2日に模擬テストの受験を予定しており、演習問題に取り組めるのは令和7年2月の予定。
- ・進捗状況について、5月31日に受験した中学校3年生のテスト結果について、西成区の平均正答率は、5教科全てで全国の平均正答率を下回っている状況となっている。
- ・デジタルドリルの使用割合について、半数の学校が使用している状況となっている。なお、教育委員会事務局はタブレットの持ち帰りを推奨しているため、デジタルドリルの使用率を上げていっていただきたい。

#### 《発展型学習支援事業》

- ・成績中上位層を中心とした学習意欲のある児童生徒に対して、発展的な内容の学習支援を行う事業。
- ・小学校5・6年生については、基礎学力向上支援事業に参加している児童がつながりで受講する児童が多いと想定しており定員を140名と多くしている。中学生については、定員が40名となっている。
- ・実施場所は、小学生は岸里小学校、千本小学校、まつば小学校、南津守小学校、あいステーション、長橋小学校となっており、中学生は梅南中学校となっている。
- ・受講者が少なかったため、追加募集、最終募集を行った。受講者が多かった中学校に要因を聞くと、西成特別進学塾と西成まなび塾のチラシを7月の懇談の際に担任が保護者に直接渡し、推薦してもらったためと聞いている。
- ・今後、ニーズ調査のために児童生徒・保護者向けのアンケートを考えている。

#### 《西成区基礎学力アップ事業（西成まなび塾）》

- ・区内の小学校5・6年生及び中学生に対し、小中学校校舎等の公共施設を活用した塾等事業者による課外授業（補習）を実施している。
- ・小学校5・6年生の参加者数の合計が14名、中学生の参加者数の合計が58名となっている。今後、中学生は更に12名増える予定と事業者から聞いている。
- ・令和6年度下半期からの習い事・塾代助成カードの所得制限撤廃に伴い、参加しやすくなることも考えられるため、各学校で対象者への声掛けをお願いしたい。

《基礎学力向上支援事業（西成ジャガピースクール）》

- ・区内小学3・4年生に対し、夏休みや冬休み、平日の放課後を利用し、小学校で塾等の事業者による課外授業を実施している。
- ・令和5年度から前期後期制とし、後期に習熟度別授業を行っている。
- ・令和6年度は各学校のご協力をいただき、ジャガピースクール体験会を授業や放課後の時間帯を活用して、小学校3年生全員に対して実施した。

《プレーパーク事業》

- ・魅力ある子育て環境を創出することで西成区に対する偏見やマイナスイメージを払拭し、子どもの生きる力を育む居場所であるプレーパークを実施している。
- ・令和6年度からプレイス型と体験型の2つの形態に分けて実施している。
- ・プレイス型については、もと松之宮小学校8日、もと今宮小学校4日、南津守中央公園1日、計13日間開催し、平均来場者数は100名となっている。
- ・体験型については、体験活動により子どもの好奇心を刺激し物事への興味や関心を広げ、ひいては学習意欲も引き出すことを考えている。6月1日に天下茶屋公園で『昆活しようぜ！&アートワークショップ』を実施し、156名と非常に多くの参加をいただいた。
- ・9月以降も小中学校や区役所などで職業体験やワークショップなどを実施する予定となっている。

《西成区こどもの読書活動推進支援事業》

- ・読書活動を行うきっかけづくりとして、年間の読了冊数に応じて賞状を贈呈する。読書の質も大事であるという意見があったことから、ふりかえりシートを導入し、読書の質も高めていく。
- ・4月～令和7年1月までが読書活動の取組期間であり、希望する学校には区長が訪問し、区長表彰を行う予定となっている。

《キャリア教育推進支援事業》

- ・西成区内在学の中学生を対象に、様々な分野で活躍するゲストティーチャーとの交流や講義を通して、ゲストティーチャーがどのような進路を選択し、どのような方法でその職業に就いたのかを学ぶなど、児童生徒が具体的な進路や将来の職業について考える機会を提供する。
- ・進捗状況としましては、7月2日に今宮中学校で大阪エヴェッサが実施。また、7月4日に成南中学校で大阪エヴェッサが実施。10月には玉出中学校でセレッソ大阪が実施予定となっている。

《大阪フィルハーモニー交響楽団出前授業事業》

・区内小中学校の児童生徒にプロの演奏を鑑賞してもらい、地域への愛着や誇りをはぐくみ、魅力ある地域へと変革させる人材育成につなげるとともに、将来の目標を見出している人材育成をはかることを目的として実施している。2年間をかけて全小中学校で実施する。今年度は全8校について既に実施済。

・新しい取り組みとして、9月7日（土）に小学校4年生から6年生を対象に、保護者同伴で大阪フィルハーモニー交響楽団の演奏会を企画している。現在、行政オンラインシステムで申し込みを受付中。150組300名の定員で、30組60名の申し込みとなっている。定員枠に余裕があるため、声掛けをお願いしたい。

《西成しごと博物館》

・西成区や近隣のこどもたちに、地元の企業の仕事内容を理解してもらうことで、働くことの大切さや面白さを感じてもらい、地元を誇りと愛着を持っていただくことを目的として区内の企業に出展していただき、仕事見学・体験を行う。

・今年度は10月27日（日）に区民センターで実施する予定。毎年、好評な事業となっており、実際に体験した小学校卒業生が参加したいということで、今年度から中学生にも対象枠を拡大する予定となっている。実施内容については、大阪府中小企業家同友会西成住之江支部に確認中。

《帰国・来日等のこどものコミュニケーションサポート事業》

・帰国・来日等の児童生徒で、学校生活において日本の生活習慣等に支援が必要な児童生徒に対し寄り添い支援を行うサポーターを配置している。サポーターは有償ボランティアとしている。

・現在活動しているサポーター数は16名で、活動実績は全校合計で4月72時間、5月104時間、6月120時間となっている。

・令和6年度は年間の総配置時間を1,500時間に増やしたため、活動実績時間は6月末現在で昨年度より多くなっている。

《小・中学校サポーター登録事業》

・帰国・来日等のこどものコミュニケーションサポーターや、こども生活・まなびサポート事業の区低学年サポーターも含め、各学校で活動していただけるサポーターを区役所で募集・登録し、各学校へ紹介する。

・大学等へも積極的に働きかけ、募集チラシをメールや郵送など29箇所へ送付。

・紹介実績については、区低学年サポーターが3名、帰国・来日等のこどものコミュニケーションサポーターが7名となっている。

### 【各学校からの主な意見・質問】

#### 《西成区こども生活・まなびサポート事業》

- ・小学校1年生のークラスに学習姿勢向上支援員に入ってもらっている。教室から飛び出してしまう児童や落ち着きがない児童もいるが、臨機応変に対応していただいている。
- ・支援員がフルタイムでの勤務というのも非常に助かっている。教員も忙しいが、2学期以降は時間を作ってしっかりと支援員と連携していきたい。

#### 《外国につながる児童生徒の学習言語定着支援事業》

- ・日本語指導教育センター校に一年から一年半ほど通わないと通塾できるレベルには達しないので、本事業に申し込むまでに時間は掛かってしまうというはある。
- ・学校だけでは孤立する場面もあるが、学習塾では子どもたち同士が母語で学校のことなどを話しており、すごく安心した表情を見せているのは印象的であった。子どもたちの居場所という一面もある。
- ・受講者を増やしていくためには、保護者にいかに伝えるかが大事である。児童がそろそろセンター校を卒業するときには、保護者を含めて話し合う場を作ってもらい、センター校の担当者を通じて事業の説明を行っている。
- ・帰国・来日等のこどものコミュニケーションサポーターが中国語も話すことができるため、懇談時にサポーターの力も借りながら事業内容を通訳して説明していただいた。募集チラシを配布するだけでなく、個別に対応をしている。
- ・生活言語を習得するために、2～3年程度センター校に通い続ける生徒もいる。中学1年生であれば中学3年生の後半にセンター校を卒業することになるため、対象者の基準（日本語指導教育センター校通級終了程度）を柔軟に変更することが出来ればと思う。教育委員会事務局の事業（日本語指導教育センター校）との重複にはあたらないのではないか。
- ・実施場所が区内2箇所しかないので、家から学校までの距離の関係で小学校4年生であれば一人で通うのに不安はあるかもしれない。

#### 《キャリア教育推進支援事業》

- ・大阪エヴェッサの選手やコーチなどに来ていただき、どのような道筋を通過して今の職に就いたのかなど講義をしていただいた。また、放課後の部活で実技指導もしていただき、生徒も大変喜んでいました。

#### 《帰国・来日等のこどものコミュニケーションサポート事業》

- ・サポーターとして入っていただいた方が中国語と英語も話すことができるため、中国籍の児童だけではなく、英語しか話すことができない他の国籍の児童にも対応していただいている。学習面や生活面などあらゆる場面で活躍していただいております、児童自身のモチベ

ーションも上がっている。

《小・中学校サポーター登録事業》

・日本にきたばかりで日本語が分からないだけでなく、本人の特性や複雑な家庭環境など、様々な問題を抱えている外国籍児童が増えてきているため、そのような状況に対応できるように事業の拡大を行っていただきたい。

【主な意見・質問に対する回答】

・募集チラシの配布や個別の児童生徒への声掛け、中学校では模擬テストの実施や演習問題の活用など、校長先生の協力もあり、より効果的な事業実施となるよう取り組みが進められている。

・今後、校長先生からのご意見をもとにこども・教育関連事業の改善を図っていく。

○ 令和6年度 実施事業に関する区役所からの連絡事項

【説明要旨】

資料6-1～3に基づき子育てと遊び場に関する意識調査の実施について、資料7に基づき教育行政連絡会の開催日程について、子育て支援担当課長より説明。

《子育てと遊び場に関する意識調査の実施について》

- ・遊び場の必要性や遊び場に求めるものについて、子育て世帯を対象に意識調査を実施する予定。
- ・小学校1年生～6年生の全児童を対象に調査依頼書を配付し、10月上旬を回答期限とする。調査依頼書を各校に送付するため、児童への配付をお願いしたい。なお、回答はGoogleフォームにて回答をお願いするため、学校において回収していただく必要はない。
- ・また未就学児については、子育て関連行事などを通じて聞き取り調査を行う予定。

《教育行政連絡会の開催日程》

- ・今後の日程として、12月中旬と令和7年2月下旬に開催する予定。

【主な意見・質問】

なし